

Nutron Data Compilation Centre の NEWS LETTER 発刊について

岡本浩一(日本原子力研究所)

ENEAのNeutron Data Compilation Centre (フランス名Centre de
Compilation de Données からCCDNと略称する)からNEWS LETTER ⅴ1が発

刊され、E N E A加盟国の核データ関係の研究者および図書館等に配布された。この第1号は、CCDNの活動、CINDA(Computer Index of Neutron Data)やSCISRS(Sigma Center Information Storage and Retrieval System)が紹介されている。(同内容のフランス語版も送られてきている。)

CINDAについては既に紹介されているが、*現在CCDNの二つの主な活動の一つがCINDA Systemの作業であり、全てのデータの分類、種わけ、保存および抄録はIBM7094 Mark II 計算機で行われ、米国Columbia 大学内のCINDAセンターとCCDNの間は磁気テープなどによる相互情報の交換が定期的に行われている。CCDNとして第一回発行の1965年6月出版“CINDA'65”は750コピーが直ちになくなり、続いてのSupplement - 1 to CINDA'65(1965年10月)は1500コピーを必要とする程、各方面の要求が多かつた。

CCDNのもう一つの活動はActual Dataの収集で、現在までBNLのSigma Centerとの協力で進められ、IBM7094にそのデータが保存、分類され探索が出来る。この作業はその複雑さのため、それ程進展していないが将来のCCDNの主な活動となるとしている。Data Libraryは現在200,000乃至300,000の実験点を含み、核分裂性核種とHからCaまでのIntegrated Cross Sectionについては比較的よく収集されている。

Centreはまた最近IBM360 Model-30計算機を購入し、IBM7049 Mark IIの大部分の作業を移すことになっている。その外、上記360とON-LINEで使用出来るCurve Plotter(Benson France, Model-1341)が入荷予定である。

NEWSLETTERではまたCINDAの将来にあり方についての討論をかんげいしている。現在のCINDAの収集では中性子エネルギーは20MeV以下、また(γ, n), (γ, f)反応の光子エネルギーは15MeVまででかつ、その断面積が0.1mbarn以上という制限がついている。これは直接原子炉を対象にしたことから出て来ており、とくに中性子エネルギーは20MeVより中間子発生シキイ値まで拡張することなど考慮される。たゞしCINDA自身が収集量が莫大となり、そのために制限をうけるので、何冊かに分けることも考えられる。

CCDNからとくに、論文の著者がその文献配布リスト中にCCDNを加えること、また論文著者の許可があるまでは公表しないから、出来るだけ速に正式のレポート以前のPreprintの形のまゝでもよいからCCDNに送付されることを希望している。なお、その際、実験数値をテープ、表などのどんな形式でもよいからCCDNに知らせてくれることもかんげいしている。CCDNと

* 原子力学会誌7巻3号177頁(1965)

してはCINDAを年1回、その補遺を数回配布すると共に、電話、電報、手紙その他の手段によるRequest に応じてCINDAからの検索Retrievalを行う作業をすることになっている。

またENEAとUSAEC、OECDとCEAとの協力の外に、CCDNとOECD非加盟国との関係にふれており、現在ではOECD非加盟国との協力には機械の能力、作業の方法、距離的問題などが存するが、CCDNはIAEAのINDSWG(International Nuclear Data Scientific Working Group)と協力しており、OECD非加盟国でもIAEA Nuclear Data Unitを通じてCINDAが入手出来ることを示している。

なお新しい“CINDA'66”は1966年6月に発行され、そのENTRY数は35000を含んでいる。(未着)

NEWSLETTER Ⅱが最近送られてきたが、これには、現在のCCDN保管のSCISRS Library のリストが収録されている。

☆☆☆☆☆☆☆☆